



あなたの応援が、
復興への
一歩になる。

IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

ニュースレター (2013.12.27 第6号)

専門高校支援

高田高校、宮城県農業校が頑張っています

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトが支援を続けてきた岩手県立高田高校、宮城県農業高校の生徒たちが快挙を達成しました。

岩手県立高田高校は、東日本大震災の津波により校舎が全壊し、現在は大船渡東高校萱中校舎に間借りして授業を実施しています。本プロジェクトはこれまでに潜水実習機材、食品加工・調理実習機材など、4,200万円余りの機材を支援してきました。

今般、これらの機材を使用し、同校海洋システム科の生徒達が開発した「たかこうサバカレー」が平成25年度いわて特産品コンクール食品部門で実行委員会会長賞を受賞しました。同コンクールは、岩手県内で製造される優れた食品・工芸品等を審査するもので、昭和48年より開催されています。今年度は地場企業を中心に69社143点(食品部門)が出品されました。高田高校「たかこうサバカレー」は高校生による出品では唯一、入賞の快挙を達成しました。

陸前高田市の特産であるサバを、本プロジェクトより寄贈した高圧蒸気殺菌・冷却装置で加圧することにより、骨まで食べられるように調理されています。レトルトパウチに保存することにより、災

害時等でも食べやすくされている点も審査員より高く評価されました。



宮城県農業高校も東日本大震災の津波により校舎が全壊し、現在は仮設校舎で授業を行っています。本プロジェクトはこれまでに大型バス、冷凍・冷蔵庫など、8,900万円余りの機材を支援しました。

地方予選を経て、11月1日に開催された「第2回ご当地!絶品うまいもん甲子園」(<http://umaimonkoshien.com/>)において、宮城県農業高校食品化学科課題研究班が製造した「伊達なハイカラぎょーざ」が最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。

高田高校、宮城県農業高校は、ともに校舎が壊滅的な被害を受け、厳しい状況下で授業を行われています。引き続き、皆様のご支援をお願いいたします。

専門高校支援

長谷川共同委員長が支援先を訪問しました

長谷川閑史 IPPO IPPO NIPPON プロジェクト共同委員長（経済同友会代表幹事）は、10月8日、2013年度全国経済同友会代表幹事円卓会議が前日に盛岡市内で開催されたのに併せ、各地経済同友会代表幹事15名、事務局長20名とともに岩手県立高田高校、岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライトを訪問しました。

高田高校

横田昭彦 校長より東日本大震災発生当時から現在に至るまでの復旧・復興状況を伺った後、生徒代表より IPPO IPPO NIPPON プロジェクトが支援した機材を用いた潜水実習授業の様子、いわて特産品コンクールで実行委員会会長賞を受賞した「たかこう サバカレー」の開発経緯などについて説明を受けました。

その後、避難先である大船渡東高校萱中校舎内で行われている調理実習の様を見学しました。

長谷川共同委員長は「我々の支援が実際に役立てられ、生徒の皆様の就職などに貢献できたことは大きな喜びだ。大変な状況でも、生徒・教職員の皆様の頑張っておられる姿を拝見し、大いに勇気づけられた」と御礼を述べました。



左側：水戸保弘 高田高校教諭、右：長谷川共同委員長



参加者によるサバカレーの試食の様子

岩手大学三陸復興推進機構

岩手大学は三陸地域の復興を支援するために[三陸水産研究センター](#)を設置し、釜石サテライトを拠点に活動を行っています。IPPO IPPO NIPPON プロジェクトでは、同大学の復興事業を支援しており、今般、高田高校訪問に引き続いて視察を行いました。

三陸地域の主要産業である水産業の高度化に向け、産官学連携による加工技術の開発、地元漁業者を対象とする研修会などの取り組みを展開しており、概要説明の他、海藻加工食品やハーブを利用した干物などの試食を行いました。



小野寺純治 岩手大学地域連携副センター長による説明